

水循環施策の推進に関する有識者会議(第11回)

議事概要

日 時：令和4年4月28日(木)

(持ち回り開催)

【議事】

水循環基本計画原案について

【委員からの意見】(五十音順に記載)

(沖座長)

- ・地球温暖化への対応について、緩和策は、再生可能エネルギーだけではなく、省エネの観点もあるのではないかと。
- ・災害時応急井戸について、利用の推進と記載するだけでは、単に「地下水を使えばいい」と受け取られかねないため、課題等もあることを記載すべきではないかと。
- ・地中熱(地下水熱)利用については、地下水障害にも留意することを記載すべきではないかと。
- ・地下水マネジメントのためには、井戸のデータだけでなく、地下水盆の構造のデータが重要である。地形や地質のデータは集約されてきているが、地下水については集約されていないだけでなく、失われている場合もあり、地下水の水量、水質等と地形、地質等を一体的にデータベース化する必要がある。

(笹川委員)

- ・流域治水の記載が少ないのではないかと。

(指出委員)

- ・見直しにあわせて、防災・減災(流域治水)や気候変動(再生可能エネルギー)が盛り込まれ、水循環基本計画がうまくアップデートされている。

(滝沢委員)

- ・地下水については、住民の意識をいかに高めるかが課題。何か問題があれば住民の意識は高まるが、問題がなければ関心は持ちにくい。
- ・地方公共団体には、審議会を作ったことがないという団体もある。運用の段階で、プラットフォームでそのようなことに関しアドバイスが出来るようになれば良い。
- ・災害時応急井戸について、熊本地震では、ケーシングが曲がってポンプが使えないなどの障害もあった。そのような課題についても明記すべきでないかと。

(武山委員)

- ・(特段の御意見なし)

(立川委員)

- ・趣旨についてよく理解した。地下水をしっかりと位置付けたことに異論はない。
- ・わかりやすく、良い方向の改正になった。モニタリングも含め、積極的に利用する方向も含まれると理解した。

(辻村委員)

- ・気候変動について、既往の知見に沿って記載いただいているが、地下水については不明な点が多い。現状認識として、こうした事実を記載してはどうか。
- ・地下水に関するデータ、モニタリングの技術開発を推進していくべき。
- ・地下水については、適時、適切な知識、情報を伝えていく必要がある。ステークホルダー毎に必要な情報は異なり、多層的なコンテンツが必要ではないか。地下水をマネジメントしていくためには、関係者が必要な知識と情報を有しておく必要がある。

(古米委員)

- ・地球温暖化への対応について、1段落の文章が長いため、2段落にしてはどうか。
- ・雨水貯留だけでなく雨水浸透や緑地保全（地下水涵養）など、流出抑制と地下水涵養を関連付けた記載にしてはどうか。

(前田委員)

- ・大きな意見はない。全体的に詳細に記載されており、今後の取組に有用と考える。

(吉富委員)

- ・プラットフォーム（ポータルサイト）については、立ち上げるだけでなく、それを維持・管理していくことも重要。集約した情報をわかりやすく視覚化し、使いやすい形として提供できるよう、工夫する必要がある。

以上